

「スイッチで広がる夢」

利用者：藤島 陽子 支援者：石橋 昌和

1. **陽子さんとの出会い** 私が陽子さんと出会ったのは今から5年前でした、その時の彼女は毎日、暗い表情で、正直、どう支援していけばいいのだろうと途方に暮れたのを覚えています。とにかく彼女を知るために、食事介助の時間を利用して、どうしてそんな暗い顔になってしまうかを何度も何度も話し合いました。その結果、彼女が生活のあらゆる場面で周囲に遠慮して我慢ばかりして生活しているということがわかりました。そこで、まずは「我慢させない支援」を心がけました。給食の牛乳を温めてほしいとか、たまには肩をもんでほしいとか、小さなことから始めた結果、彼女は、少しずつ自分の心情を話してくれるようになりました。
2. **カヌーに乗りたい** 傾聴を続けるうちに、彼女が「昔、カヌーに乗りたいという夢を持っていたが、諦めた。」ということ話をしてくれました。そこで、カヌーショップとの交渉を2年がかりで行いました。コミュニケーション機器を使って自分でガイドヘルプの契約を行い、外出も出来るように支援しました。その結果、陽子さんは夢だったカヌーに乗ることができました。諦めずに挑戦すれば夢がかなうという経験は、彼女にとって初めてのことでした。今思えば、このことが彼女の大きな転機になったのだと思います。
3. **自分の店を持ちたい** 彼女は自分の店を持ちたいという夢を持っているのもわかりました。いきなり、自分のお店を持つというのは難しいので、まずはフリーマーケットから始めてみようということになりました。陽子さんがヘッドポインタでワープロを操作してチラシを作成しました。商品が集まったので、オーナーである彼女にすべて値段を決めてもらいました。声が出にくい陽子さんに、お客さんとやり取りをしてもらうためにチャットボックスに声を入れてヘッドポインタでボタンを押してもらいました。
4. **自分の部屋がほしい** 陽子さんは、自分の部屋がほしいという、この年齢ならば当たり前前の夢も持っていました。面談で、ご家族に陽子さんの部屋をつくってみてはどうかという提案をしましたが残念ながらこの時点では、受け入れてもらえませんでした。
5. **プレゼンテーション** そんなある日、私のところに、障がい児のお母さん方を対象に成人期の生活について話してほしいという依頼がありました。そこで、陽子さんと一緒にプレゼンテーションを行うということを条件に、その話を受けることにしました。最初の30分、私がカヌーやフリーマーケットのビデオを見せながら陽子さんの生活の紹介を行いました。そして最後に、陽子さんがパソコンを使って作成したメッセージを、大勢の前で顎の下についたスイッチを使ってパワーポイントで発表してもらいました。その内容は以下のようなものでした。

「私って贅沢ですか？」

私はいつも親に贅沢だって言われます。私はただ同じ年齢の人達がやっていることを私もしたいって言うだけなのに。自由に自分の行きたい所に行きたい。自分のお金は自分の自由に使いたい。旅行がしたい。カヌーに乗りたい。バンジージャンプに挑戦したい。親と離れて生活がしたい。恋愛がしてみたい。私って贅沢ですか？親が私のことを贅沢だって言うのは、親が障がいを持つ人の生活を基準にしているからだと思います。障がいを持つ子どもの親の友達は、やっぱり障がいを持つ子どもの親ばかりだからです。ノーマライゼーションっていうのなら、贅沢の基準は障がいのない人の生活だと思いませんか？私って贅沢ですか？

「お母さんありがとう」

お母さん、ありがとう。いつもお母さんが私に我慢しなさいって言うから、いつも喧嘩になってしまうけど、本当は感謝しています。お母さんありがとう、いつもありがとう
ついつい反発してしまう私をどうか許してください。

「天国」

天国ってどんなところだろう?ふあふあしたとこかな?歩けるとこかな?痛みを感じないところかな?もし、そういうところだったら早く行きたい。行って、めいっぱい、自由に動き回りたい。そして、天国から母のことを見守ってやるからね。今までの自由にならなかった人生を自由にしてやるからね。

陽子さんのメッセージを聞いて、会場のみなさんは私たちが驚くほど涙を流して泣いていました。そして見に来ていた陽子さんのお母様も号泣なさっていました。このプレゼンテーションによって、やっとお母様に陽子さんの心の痛みと優しさが伝わったのだと思います。

6. **自分の部屋ができた** このプレゼンテーションの後、陽子さんは自宅を改造して自分の部屋を作ってもらいました。今は、そこにヘルパーさんを入れて生活しています。
7. **本当は恋愛がしたい** 数々の支援の結果、陽子さんの夢がかない、以前では考えられないような笑顔が見られるようになりました。でも、陽子さんには、諦めていた、もう一つ夢がありました。それは「恋愛をしたい」ということだったのです。出会った頃は、「恋愛は諦めてしまった。」と話していたのですが、陽子さんは、もう一度挑戦しようという気持ちになったのです。ここにきて陽子さんの真のニーズにたどり着いたと感じています。どうやったら陽子さんに恋人ができるか、現時点では試行錯誤です。でも陽子さんはパソコンを使って詩を書くことができます。ですから自分の想いを詩集にして、たくさんの人に読んでもらい、そしてその中から理想のパートナーが見つかるのではないかと2人で作成を立てています。恋について2人で書いた詩を載せておきます。

「恋について」

あなたは恋をしたことがありますか?たとえ、したことがなくても今からするでしょう?少なくとも恋をしてみたいと思ったことぐらいはあるのではないですか?それは、私も同じなのです。手足が動かない、声が出ない、何でも人に手伝ってもらわなければならないとしても、そのことについては、私もあなたも同じなのです。人として女として生まれたからには、それは誰もが願うことではないでしょうか?でも私は恋をするチャンスがありません。理想のパートナーを求めて自分で歩き回ることも出来ません。でも、恋を知らずに死にたくはないのです。誰もが当たり前に行っていることを、自分が出来ないかもしれないという辛さが、あなたにはわかりますか?テレビドラマのラブシーンを見て、死にたい気持ちになってしまう私の気持ちがわかりますか?私が恋をするためには、誰かの協力が必要です。誰か協力してくれないかなあ。誰かいい人いないかなあ。

恋人ができるかどうかは現時点では、わかりません。でも、陽子さんによく話します。「これまでだって、とても無理だと思っていたカヌーやフリーマーケットや自分の部屋という夢がかなったのだから、もしかしたら恋人もできかもしれないよね」。今日も陽子さんの真のニーズを満たすために日々支援を続けています。

8. **最後に** 思えば、陽子さんの夢をかなえるために、その過程にいつも e-AT があったように思います。e-AT がなければ陽子さんの夢は、かなわなかったと思います。でも e-AT だけでは陽子さんの夢はかなわなかったのではないかと思います。「夢をかなえたい」という本人と支援者の強い気持ちがあったからこそ、e-AT は陽子さんと私に力を貸してくれたのだと思います。